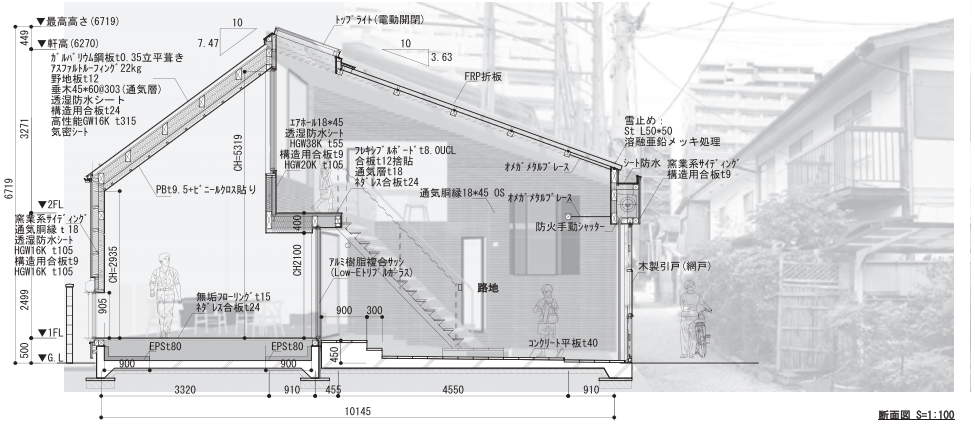
# 木町通の家

設計監理:一級建築士事務所SATO+
担当:佐藤　充

路地に落ちる影と内部から溢れ出す光

内部に引き込んだ路地を見る




断面図 S=1:100

## 設計趣旨

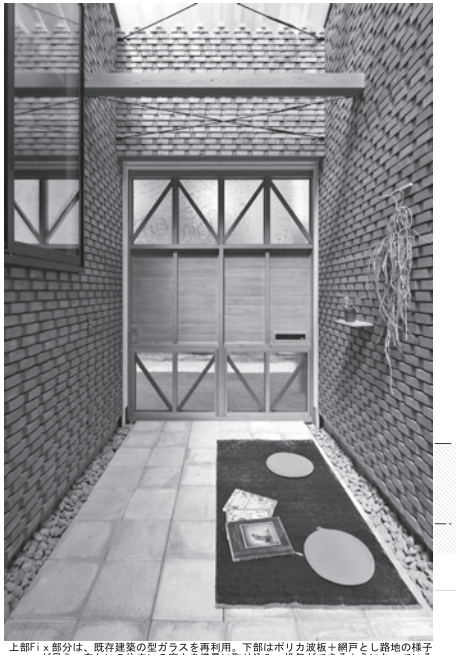
「路地を引き込み　天空光を得る」

敷地は、せんだいメディアテークから北に500m程の都市生活に事欠かない利便性の良い場所に位置する。周囲の開発から取り残されたかのように幅員4m未満の砂利敷きの狭隘道路に沿って8軒の住宅が密集する一角に敷地はある。軽自動車すら進入することが出来ない狭隘道路は、8軒の住宅の中庭のように庭木が越境し、道路とは思えない親密さがある。対して、この8軒の住宅が密集する小集落の南には5階建ての病院が建ち、冬季の採光を獲得するためには、高さ13mの位置に窓を設けることになり、この小集落のスケールから逸脱したものとなる。

クライアントは、車を手放し、カーシェアを利用し、太陽の光を浴びたいときは近くの公園に散歩をする。都市空間に住まうことを求めこの敷地を購入した。

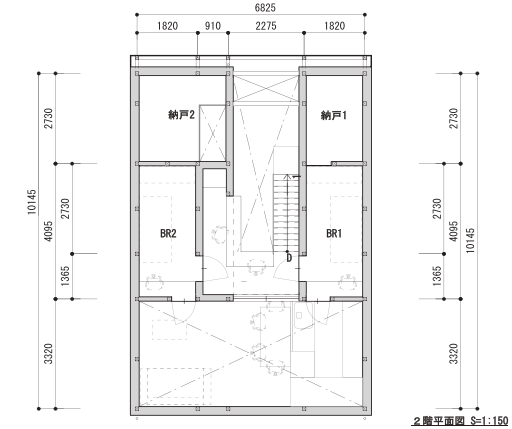
住まいは、手を伸ばしても得る事が出来ない採光を求めるのではなく、大気に拡散する天空光を得ることとし、小集落の中庭を分岐するように幅2mのFRP折板で覆われた路地を引き込んだ。路地は、玄関であり、リビングであり、新型コロナウィルス感染拡大を機に在宅ワークにシフトした主人の書斎であり、1階から2階の個室への移動空間である。常時開放している防火シャッターを設けることで、防火構造を成し、中庭と路地をシームレスに接続している。木造建築は内部仕上げから外部仕上げまで気密層、断熱層、防水層、通気層と機能を持ったいくつもの層によって構成されているが、この路地は、防水層の外にある通気層を肥大化させたものであり、透湿防水シートに通気胴縁のエアホールを表にして、12mmの隙間をとって仕上げとした半屋外空間である。住まい手によって通気胴縁の隙間に12mmの棚板を差し込み、植物や置物で溢れ、天空光で満たされた路地空間は、クライアントの都市生活をさらに謳歌するための空間となる。



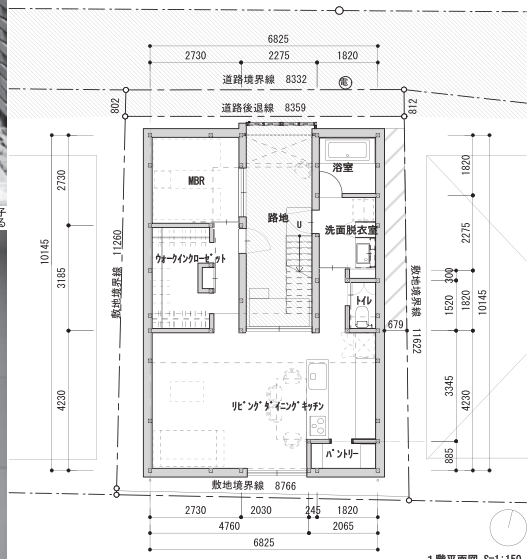


上部Fix部分は、既存建築の型ガラスを再利用。下部はポリカ波板＋網戸とし路地の様子が見え、向かいの住まいの庭木を借景に取り込み、換気ができるようになっている

リビングから路地を見る。FRP折板によって拡散した天空光で満たされるリビング




2階平面図 S=1:150




1階平面図 S=1:150

## 建築概要

［建物名称］ 木町通の家
［発注者］ 宍戸 潤平　宍戸 佳
［用　途］ 個人住宅
［所在地］ 宮城県仙台市青葉区木町通
［設計監理］ 一級建築士事務所SATO+
基本設計　佐藤 充　真島 嵩啓(元所員)
実施設計　佐藤 充　真島 嵩啓(元所員)
［施　工］ 共栄ハウジング　鈴木 渉
［規　模］
構　造　木造
階　数　地上2階
敷地面積　98.77 ㎡
建築面積　69.23 ㎡
延床面積　105.19 ㎡

［設計期間］ 2019年11月～2020年6月
［工事期間］ 2020年 9月～2021年2月
［主な外部仕上］
屋　根　ガルバリウム鋼板 立平葺き
一部FRP折板
外　壁　窯業系サイディング
開口部　アルミ樹脂複合サッシ
(Low-Eトリプルガラス)
［主な内部仕上］
ホール内壁 通気胴縁OS塗装
床 コンクリート平板
居室内壁　PBt12.5＋ビニルクロス貼り
天井　PBt 9.5＋ビニルクロス貼り
床　無垢フローリングt15